

より良く生きることを目指して ～甕島の魅力を活かした提案～

第一工科大学 工学部 学籍番号 20TB701 名前 花立 れな

甕島のウェルビーイングを目指すための提案をするにあたり、2023年12月12日(火)～14日(木)の3日間甕島を訪れ、現地でのフィールドワークを行った。鹿児島県には多くの離島があるが、宮崎県出身の私は、鹿児島県の離島の一つである甕島のことを知らなかったため、今回、甕島に着目して離島での生活環境について知りたいと関心をもった。今回のフィールドワークを通して、私が実際に体験して得た学びや情報を基に、次の5つの観点から甕島でより良く生きることを目指す提案をする。

1. 医療の充実化

○ 調査目的

甕島での医療について知り、離島の医療の在り方について考える。

○ 調査方法

- ・ 12月13日(水)

手打診療所にて、そこで働く医者の方、甕島で自衛隊の医者をしている方の2名から、甕島の医療についての話を聞いたり、インタビューをしたりした。

○ 調査結果

- ・ 医療はなくてはならないものである。
- ・ 離島での医療：患者さんの明日の生活をハッピーに。(地域を見て何が足りないか、地域に対して何ができるか。)
- ・ コミュニティ
人と人との距離が近いので、患者さんの生活が見える。(地域で見かけたり、お店で会ったりする。)
- ・ 本土までドクターヘリで20分かかる。
- ・ 甕島に来たきっかけ
へき地医療のつながり

○ 結果分析

- ・ へき地医療の魅力
患者さんとの距離が近く、生活の様子を

把握しながら一人ひとりに寄り添った医療を提供できる。

- ・ 離島は本土に搬送するまでに時間がかかるため、離島であっても必要な医療を受けることができる体制づくりを行う必要がある。

○ 考察

甕島の人々が日々安心して暮らすために医療は欠かせないものであり、その生活環境を整えることは大切なことである。私は、医療を充実させるためには、十分な医療従事者を確保することが必要になると感じた。実際、今は医療従事者の数が足りているとしても、今後もずっと続く甕島の未来のことを考えると今から課題意識をもっておくことは重要なことであると考えている。

提案：鹿児島県本土にある、人が集まる商業施設にて、へき地医療について知るイベントの開催

現在、甕島で自衛隊の医者をしている方は、へき地医療のつながりから甕島を知り、ここで医者をしているとおっしゃっていた。このことから、へき地医療とはどういうものなのかについて知っている人は少ないのではないかと感じた。鹿児島県にはたくさんの離島があることから、まずは知ってもらうために、様々な場所で働く医療従事者の方々にへき地

ならではの医療の魅力を伝える機会を設けると良いのではないかと考える。また、このようなイベントだけではなく、これから将来を描く子どもたちに授業の中でもへき地での医療について知る機会を作ることで、より甕島のこれからの医療ニーズに対応することができるのではないかと考える。

○ 添付資料



2. 甕島ならではの教育

○ 調査目的

甕島の教育の現状について学び、離島での

教育・保育について理解する。

○ 調査方法

- ・ 12月13日（水）

海星中学校での木育の授業

海星中学校にて、丈夫にするための構造についての授業を行い、生徒と一緒に構造を生かしたスマホスタンドの製作に取り組んだ。

- ・ 12月13日（水）

手打小学校の見学

手打小学校にて、校舎内の教室等を見学させていただきながら甕島での教育について先生方から話を伺った。

- ・ 12月14日（木）

かのこ幼稚園・下甕保育園にて、園舎内の保育室、遊戯室等を見学させていただきながら甕島での保育、教育について先生方から話を伺った。

○ 調査結果

- ・ 各教育・保育施設の人数が少なく、たくさんの人たちと関わる機会がない。
- ・ 先生と生徒の距離が近い。
→親身になって教育・保育を行うことができる。
- ・ 教員の離島での満足度が高い。
- ・ 地域の人たちを呼んで発表会をしていた。
→地域がにぎわう。

○ 結果分析

- ・ クラスの人数が少なく、たくさんの人と意見を出し合ったり、色々な考え方を知る機会がなかなかない。
- ・ 教育・保育における甕島の魅力がある。

○ 考察

甕島の教育・保育現場を見学させていただ

き、私はもっと子どもたちに甌島ならではの教育・保育を行いたいと感じた。甌島は各保育園や幼稚園、小学校、中学校の人数が少なく、中学校までほぼ同じメンバーで過ごしながら成長していくという面がありつつも、人の温かさを感じたとともに海や星、本土とは違う地層などの色々な景色、魚のさばき方や漁師の方々の仕事の見学などの様々な体験から、甌島だからこそその魅力がたくさんあると今回甌島を訪れて感じた。

提案：授業内容も甌島ならではの教育を

学校でのつながりだけではなく、地域のコミュニティと広いつながりをもつことができるように保育や授業を構成することにより、限られたコミュニティだけではない人たちとコミュニケーションをとるきっかけとなると考える。それらを授業の中に取り入れて、授業の内容と関連させながら進めていくことで甌島でしかできない面白い授業を展開することができるのではないかと考える。例えば、海での水泳の授業、天体観測や地層を実際に見ながらの理科の授業、仕事について考える進路指導の際には漁業の仕事を見学し、魚のさばき方を教えてもらうなど色々考えられる。そして、このように取り組むことは教師自身も赴任した甌島という地でしか得られない教育者としての学びをこれからの教員生活に活かすことができるのではないかと考える。

○ 添付資料



3. 人口の U ターン増加・人材の確保

○ 調査目的

現地を見て、人口やどのような人材が必要なのかについて学び、対策を考える。

○ 調査方法

・ 12月12日(火)

甌島の方々との懇談会にて、講師の方から講話を聴いた。

甌島の方々との懇親会にて、島民の方とお話を行った。

○ 調査結果

- ・ 人口が減少している。
- ・ 少子高齢化が課題である。
- ・ 幼稚園、小学校、中学校は閉園、閉校、休校しているところがある。
- ・ 甌島には高校がないため、高校に進学するためには島を出て行かなければならない。
- ・ 漁業を主とした自営業が多い。

○ 結果分析

- ・ 子どもが少なく、高齢者が多い状況は、生活サービスの低下につながる。
- ・ 子どもが島を出て行って戻ってこない現状は後継者問題につながる。

○ 考察

私が、この観点において、甑島の生活環境で着目した点は甑島には高校がないということである。学校や仕事を求めて一度島を離れると戻ってくる人は少ないのではないかと感じた。まずは、これらのUターン者の増加を図る必要があると考える。

提案：甑島の魅力発信

島民ではない外部の人から見た甑島の魅力が組み込まれた体験を休日に積極的に実施し、甑島の人も甑島の魅力に気付けるようなイベントを行っていく。先ほどの甑島ならではの教育とも関連するが、子どもが甑島出身であることへの誇りをもつことができるような教育を小さい頃に行い、ここにしかない景色や風景、体験といった魅力を小さい頃から知っておくことが将来へつながると考えられる。そして、誇りをもつことで、いずれは地元へ貢献したいという思いや地元のために何かできることはないだろうかといった考えが生まれることを目指すと良いのではないかと感じた。また、活気ある甑島を存続させていくために、このイベントの告知を鹿児島県本土でも行い、甑島で育った人たちに加えて、若者の移住者を呼び込むような取り組みをすることで島に新しい風が吹き、より地域を盛り上げることができるとともに、若者が甑島の仕事を支える人材となると考える。

○ 添付資料



4. 島の仕事の良さを伝える

○ 調査目的

甑島にはどのような仕事があるのか知り、そのやりがいについて知る。

○ 調査方法

・ 12月13日(水)

港にて、漁から戻り、エビを仕分けする作業を実際に見学させていただいた。

・ 12月14日(木)

港にて、漁から戻り、魚を仕分けする作業を実際に見学させていただいた。また、その場で漁師の方々から話を伺った。

実際、空き家改修された家を見学させていただき、今後の使われ方などについて話を伺った。また、甑島での仕事の在り方についてのお話も伺った。

○ 調査結果

- ・ エビの漁や魚の漁を行っている。
- ・ 漁の水揚げ量は日によって異なる。
- ・ 観光の面からレンタカー屋をしたり、古民家を宿泊施設にしたりする。→甑島に足りないものを探して仕事にする。

○ 結果分析

- ・ どの職種も家族だけではなく地域の人のつながりをもちながら行われている。

- ・ 足りないものを探して仕事にするという考えは離島ならではの新しい仕事の在り方である。

○ 考察

私は今回初めて、エビの漁や魚の漁を見て、今までこんなに間近で見たことがなかったため感動し、貴重な経験となった。たくさんエビや魚をすばやく仕分けする地元の方々の姿が印象的だった。漁業がこのような魅力的な仕事であることを宮崎県出身の私が知らなかったように、鹿児島県の人の中にも知らない人はたくさんいると思う。また、私が甕島に3日間滞在した際どこに行っても見かけていた甕島の住人の方。本職は何なのだろうと思っていたら、甕島に足りないものを探して仕事にしているとおっしゃっていた。私は、なんて楽しくて面白そうな仕事だろうと驚き、興味をもった。この甕島の仕事の良さ、充実を他の人にも知ってほしいと感じた。

提案：旅行者に自分の仕事をどんどん発信しよう

甕島へ旅行に来た人に自分の仕事について伝える活動を行い、甕島と鹿児島県本土の人のつながりからコミュニティが生まれることもまた面白いのではないかと考える。

○ 添付資料



5. 魚食の普及

○ 調査目的

実際にお魚さばき方講習会に参加し、さばき方や魚食を体験的に学ぶ。

○ 調査方法

- ・ 12月12日(火)

お魚さばき方講習会へ参加し、魚のさばき方や魚をおいしく食べることについて丁寧に教えていただいた。

○ 調査結果

- ・ 魚のさばき方を身に付けることができた。
- ・ 魚食の素晴らしさを知ることができた。

○ 結果分析

- ・ なかなか自分一人では身に付けることができないため、魚を食べる術は伝統的に伝えていくべきものである。

○ 考察

私は、宮崎県出身で、今回のように魚のさばき方を丁寧に教わる機会は今までなかった。このように魚食を普及させる、魚のさばき方を学ぶ機会は魚を使った料理への興味につながると考える。私自身、大変貴重な経験となった。

提案：県内だけではなく、県外へも PR しよう

ぜひ県外でも行っていただくと魚をおいしく食べることに興味をもつきっかけとなり、甑島の水産業、新鮮な魚について知ることができ、より魚食の普及につながるのではないかと考える。

○ 添付資料



終わり

今回の甑島でのフィールドワークを通して、甑島の現状を把握し、課題を設定してより良くするための提案をすることができた。これからの将来、一人のアクティブラーナーとしてこの経験を活かしていきたい。



謝辞

本論文の作成にあたり、本研究の趣旨を理解し快く協力していただいた甑島の方々、様々な体験や貴重なお話をいただいたこと心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

参考文献

- 1) BiZPARK.“フィールドワークの重要性とレポートの書き方【例文あり】”. BiZPARK.2020-03-31.https://jinzai.or.jp/26614#toc_id_3,(参照 2024-01-10)
- 2) 国土交通省 国土政策局 離島振興課.“島づくりのトリセツ～島の将来を考える～”. 平成 29 年度 離島の資源活用施策調査.2018-03.<https://www.mlit.go.jp/common/001229951.pdf>,(参照 2024-01-10)
- 3) 国土交通省.“スマートアイランドの実現に向けたニーズ提案書”. 鹿児島県 薩摩川内市(甑島). 2019-10.
https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chirit/content/18kagoshima_satsumasendaishi_medical.pdf,(参照 2024-01-10)

甌島の魅力を活かした企画の提案

第一工科大学 工学部 学籍番号 20TB701 名前 花立 れな

○ 現状分析

甌島は鹿児島県にある離島であるため、なかなか行く機会がなく、知るきっかけが失われているように感じる。ここにある様々な魅力が十分に活かされるように、将来の甌島の在り方へとつながるような企画を行う必要があると考える。

○ 問題点と課題

- ・ 人口が減少しており、少子高齢化が進んでいる。
- ・ 甌島には高校がなく学校や仕事を求めて一度島を離れる若者も多いため、これらのUターン者増加を図る必要がある。
- ・ 将来の生活サービスの向上や後継者問題、島のにぎわいにつながるような、甌島を知ってもらう活動を行う必要がある。

○ テーマと主なポイント

「甌島 体験ツアーの実現」

- ・ 地元の人しか知らないような観光地巡りをする。→この場所の環境に触れることで、新たな発見につながる。
- ・ 甌島の水産業に触れる。→漁業を見学し、お魚さばき方講習会を行うことで、魚食の普及につながる。
- ・ 島での生活を体験する。→人の温かさに触れることはツアーの満足度、そして島への人の定着につながる。

○ 具体的な企画内容

① 甌島の観光地巡りについて

甌島の人を集って観光地マップを作成していただき、島民の方々の協力のもと案内者を決定し、甌島を案内してもらう。

② 甌島の水産業について

漁業の仕事を港から見学させていただく。

仕事内容を知った上で、お魚さばき方講習会に参加し、魚食の素晴らしさを体験的に知る。

③ 甌島での生活体験について

甌島の方々とのお食事会を開催し、実際に島の人々の話からそこでの暮らしについて知る。

海や星を身近に感じる暮らしの体験を行う。

○ スケジュール

	3月～5月	5月～1月	2月
告知	→		
実施		→	
データ分析			→

○ コスト

県からの支給

+

参加費 1名：2000円

合計 200万円程度

(参加人数により変動あり)

甌島でのフィールドワークを終えて

第一工科大学 工学部 学籍番号 20TE009 名前木前輝士

内容の要約

甌島で二泊三日甌島の海星中学校で木育という活動の一環で木に関する授業を実施しました。林業が行われていない地域での木育活動を課題に授業を行いました。その他にも魚のさばき方を学んだり、甌島で働く方々のお話を聞いたり、漁港での水揚げの見学、幼稚園や小学校の見学などをさせていただきました。

活動内容

1 魚のさばき方教室

魚のさばき方教室に参加させていただきました。自分の手で一から魚をさばく体験をさせていただきました。魚食を普及させるのを目的として魚のさばき方教室を実施しているそうです。近年魚食普及率が減ってきてしまっていて消費量が減ってきています。若者世代も魚離れが進んでいるのを自分も感じていたためとてもいい機会でした。第一工科大学の教職技術では去年から甌島の方々に大学の方で魚のさばき方教室を実施していただき、今回が二度目の参加でした。去年の11月頃に参加させていただいたのでおよそ一年ぶりに魚をさばきました。忘れていた部分と覚えていた部分が半々くらいでした。説明を聞きながら講師の方があつという間に魚を三枚におろしてそのスピードにとっても驚きました。鱗をとり、ヒレや頭などを切り落とし、内臓を取り出して背骨に沿って身を分けていくという流れでした。漁師さんのお手伝いもありなんとかさばくことができました。頭を切り落とすのが力的確に入れないと全く切り落とすことができなかつたのでコツが必要だと感じました。三枚におろした後は切り身にして刺身にしていきました。さばいている過程で頭やヒレといった捨ててしまう部分も料理に使えると教えていただき出汁をとるのに使うとよい出汁が出るそうです。魚は捨てるところがほとんどなくすごいと思いました。この魚さばき方教室で学んだことを生かして魚を自分で買って実際に捌いてみようという気持ちになったので挑戦してみたいと思います。



2 甌島の方々と懇親会

魚さばき方教室の後に地元の方々と懇親会がありました。甌島で働いている方々のお話を聞くことができました。島の人口が減少し続けていて高齢化が進んでいるといった甌島の現状についてお話を聞かせていただきました。人口の減少が一番の問題だと自分は考えていて一番解決すべき問題だと考えました。島の若者は高校が島にないので進学タイミングで大半が本土に移ってしまい若者が減少してしまっているの島の魅力を発信する必要があると思います。豊かな自然や美しい海、新鮮な海産物などここにしかない魅力がたくさんあると実際に行って感じてきました。自分は鹿児島県の鹿児島市出身で甌島という名前を聞いたことがあり、近年大きな橋ができたというニュースでしか知らなかったの知ってもらえることがなによりも大事だと思いました。



3 海星中学校での木に関する授業

木育（子供から大人までを対象に木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうという取り組み）活動の一環で海星中学校で木に関する授業をさせていただきました。二年生5名一年生11名に二時間分授業を行いました。自分は作業のサポートをする立場だったので安全に作業ができるように努めました。一時間目が丈夫な構造についてを授業し、二時間目から二枚の板を組み合わせるスマホスタンドの制作を行いました。木を組み合わせる簡単な構造のスマホスタンドで組み合わせるところをのこぎりで切つてのみで落とし、断面と表面をやすりがけするという作業でした。一年生と二年生ではのこぎりの扱いに差があり一年生は苦戦している様子でした。まっすぐに切れなかった時の修正作業に時間をとられてしまい時間がぎりぎりになってしまいました。作業は楽しんでやってもらえたのでその点はすごくよかったと思いました。また誰も怪我することなく終わることができたのですごく良かったです。この授業をきっかけに木に対して興味関心を持ってもらえたらうれしいです。自分の反省点はもう少し周りを見てサポートすることができたと思うのでそこを改善して広い視野を持てるようにしていきたいです。



4 島内の施設見学

下甌島にある幼稚園、保育園、小学校、診療所を見学させていただきました。幼稚園、保育園は少し人数が少ないだけでそれ以外は本土の幼稚園と同じでした。園長先生にお話を聞かせていただき、自衛隊の基地があり、大半が3年ほどで引っ越してしまうそうです。小中学校の人数を見て幼稚園と保育園はかなり人数がいるように感じましたがそのような理由があると知りました。幼稚園、保育園は廃校になった小学校の校舎を再利用して活用していて驚きました。

小学校の見学もさせていただきました。授業終わりの放課後の時間帯で教室やグラウンドなどの設備を見学させていただきました。複式学級という形式を初めて見て授業の時の進め方や複式学級ならではの難しいところ課題点などのお話を聞かせていただき貴重な経験になりました。

そして手打診療所の先生方との会談をしました。島で求められている医療と大学病院とでの求められている医療の違いがあるというお話をさせていただきました。自分たちは主に教育分野のことにばかり考えや意識をしまっているのも別の分野のお仕事をされている方のお話がとても新鮮でおもしろかったです。医療従事者の方々の甌島への思いなどを聞いてこれからの島についてを改めて考えました。



5 漁港見学

甌島の漁港の方に見学をさせていただきました。二日目の昼過ぎにタカエビの仕分け作業を見学させてもらいました。網でとったエビを船の甲板に広げて一匹ずつ仕分けていく作業でした。漁港を見学したことは初めての経験ですごく興味深かったです。大きさごとに手際よく分けられていて驚きました。獲れたての新鮮なエビを何尾かいただいて食べさせてもらい自分が知っているエビじゃないかと勘違いしてしまうほど新鮮でおいしかったです。そして三日目の朝にスマガツオの水揚げを見学させていただきました。大きな魚がたくさん獲れていて船の上で見せてもらい、とてもいい経験ができました。獲れたてのカツオを刺身にしてさばいてもらいいただきました。漁業は自然を相手にした仕事なので難しいとお話をされていました。自分たちが安心安全に魚を食べられることを当たり前と思わず生産者の方々や漁師の方々に感謝して魚を食べようと思いました。



謝辞

今回アイランドキャンパス事業の一環として甌島でたくさんの貴重な経験をさせていただきとてもいい勉強になりました。来年度から教員になるにあたって学校と地域との関わりについてを学ぶことができよかったです。島の方たちは会う人すべてが温かくともうれしかったです。またこの島に遊びに行きたいと思いました。甌島で関わってくださったすべての人に感謝したいと思います。ありがとうございました。

参考文献

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/mokuiku.html> (木育とは) 2/1

SNS での甑島の発信活動企画書

作成者 木前輝士

・現状分析

甑島は豊かな自然や美しい海、豊富な海産物など観光資源として適しているものが数多く存在しており、中でも海の美しさ、海産物については特に誇れるものだと自分は考えます。

・課題

甑島の存在、あるいはどんなところなのか、どこにあるのか、何が有名なのかがあまり若い世代に知られていない点が問題だと思います。知られていなければ旅先の候補にすら上がることができないので、周知してもらおうことが重要だと考える。

・企画内容

鹿児島県のインフルエンサー (Tiktok, YouTuber, Instagramer) を通じて島に来てもらい動画、及び発信活動をして甑島の魅力を知ってもらう。

・効果、メリット

SNS を通じて知った若者 (大学生、専門学生、高校生など) に旅先として選んでもらうきっかけになる。そして甑島に魅力を感じた若者が就職先を選ぶ可能性もあると考える。

・予算

インフルエンサーに対しての謝礼金

宿泊代、交通費等

上記の通り企画を提案します。